

T O
S
B A

UPER
AQUA
RIUM

TOBA SUPER AQUARIUM

特集

セレナ物語

荒俣宏の水族館史夜話



- 海の生きものに出会いたくて
- 三重の水辺紀行～水田の広がる水辺～
- モイヤー先生の水中メガネ

鳥羽水族館ぐるっと一周

イロワケイルカ

SAVE OUR NATURE

コククジラ

- 大隅 清治
- 超水族館用語事典
- 標本たちのメッセージ

鳥羽水族館

1995
SUMMER
No.14

TOBA SUPER AQUARIUM CONTENTS



表紙写真：イロワケイルカ
撮影：鳥羽水族館／中村 元

●フロントページから

マゼラン海峡は遠い。アメリカ、ブラジルを經由して、チリのサンチアゴへ、そこからさらに世界最南端の町プンタアレナスまで、日本を出発してから丸3日を費やす旅だ。

でもそれだけの価値はある。この海で美しいイロワケイルカと会えるのだから。

イロワケイルカはマゼラン海峡からフォークランド諸島にかけてごく限られた海域に住んでいる世界で最も小さいイルカだ。全長は約1.4メートル、名前の通り濁りのない白と黒の2色にきれいに塗り分けられている。

さてこのイロワケイルカ君たち、マゼラン海峡に行きさえすれば簡単に会えるというものでもない。私が彼らに初めて会えたのは、そろそろ日本に帰らなくてはならないという頃。荒れる海峡で何度も船が転覆しそうになった次の日だった。昨日までの嵐が不思議なくらい静かになった海で、私たちの船はいつのまにかイロワケイルカの群れの中に入った。

彼らは船の触先にできる波に乗ってグングンと泳ぐ。そして時折ジャンプしてはこちらの顔をのぞいている。

イルカとの出会いはいつもこんなふう突然始まる。会いたい気持ちに動かされ遠いところまでやってきて、必死に探しても見つからない。こちらがあきらめかけた頃、まるでいたずらっこのように目の前に現れるのだ。

そう、ここは彼らの海だから、ヒトの都合で会うなんてことは出来ない。彼らが私たちに会いたくなった時に初めて、私たちの出会いは始まるのである。

■中村 元

1995・夏・No.14

開館以来の入館者数40404040人達成
～日本最多の4千万人～ 01

【特集】セレナ物語

浅野 四郎 02

[海の生きものたちに出会いたくて(9)]

伊勢湾のスザメ 若林 郁夫 05

三重の水辺紀行【9】

水田の広がる水辺 06

水生昆虫コーナーオープン 08

[モイヤー先生の水中メガネ]

サンゴ礁魚類の産卵【9】
〈オオヒレテンスモドキ〉 09

[鳥羽水族館ぐるっと一周／ゾーンの人気者案内リレー]

イロワケイルカ 10

SAVE OUR NATURE【15】

コククジラ 大隅 清治 14

[鳥羽水族館の赤ちゃん-2-]

ラッコ 古田 正美 16

[とっておきのウラ話]

飼育係24時間 松本リカルド剛 17

荒俣宏の水族館史夜話

うたかたの夢【3】
..... 18

[標本たちのメッセージ-2-]

リュウグウオキナエビス 20

読者のページ 21

超水族館用語事典【2】

【エアレーション～極地の海】 22

[出来事&クローズアップ]

平成7年2月1日～4月30日 24

開館以来の入館者 40404040人達成

日本最多の四千万人



先の3月31日、鳥羽水族館の開館以来40404040人目の入館者がありました。あと二カ月で開館40周年を迎える矢先の快挙でした。

記念すべき40404040人目の入館者となったのは、京都市在住の齋藤早苗さん（女性）。くす玉が割られ、中村幸昭館長から40404040人目の認定証を、ジユゴンのぬいぐるみから海外旅行をペアでご招待の目録をプレゼントされた齋藤さんは、3人のお子さんとお越しいただいたそうです。鳥羽水族館には3度目、新しくなつてからは初めてのご来館とのこと。思いがけない記念とプレゼントにびっくりされていました。

ところで、現在、単一の水族館で入館者が4千万人に達している水族館は、鳥羽水族館だけ。1955年5月15日の開館当時は、入館料はわずか20円、年間入館者も

14万人にすぎませんでした。7年後にははやくも百万人に達し、68年に1千万人、84年に2千万人、90年に3千万人、そして昨年11月に4千万人を突破して現在に至っています。

鳥羽水族館はこの長い歴史の間に、さまざまな動物の飼育研究に挑戦し、世界で初めてのスナメリの赤ちゃんの誕生、ジユゴンの長期飼育の成功などで明るいニュースを提供してきました。また日本初のラッコの赤ちゃんの誕生でラッコブームに火をつけ、最近では超水族館の名のもとに、巨大水族館ブームの立役者となるなど、世界有数の水族館として、日本の水族館の歴史に大きく貢献してきたとの評価をいただいています。

今後も4千万人という日本一の入館者数を誇りに、みなさんと共に活動を続けていきたいと考えています。

特集

セレナ物語

■飼育研究部 浅野四郎

1987年エルニドにて。
日本へ旅立つ前のセレナとスタッフ。

1986年10月10日、フィリピン・パラワン島エルニド海域において、鳥羽水族館とフィリピン天然資源省の共同研究プロジェクトは、生後5ヶ月と推定されるメスのジュゴンを保護しました。そしてのちにそのジュゴンはアキノ大統領にセレナという名前をいただきました。鳥羽水族館とフィリピン天然資源省の共同研究プロジェクトは、それに先立つ約1年半前の1985年4月に、実態調査を通して地元住民のジュゴン保護の啓蒙を目的として、日比共同の活動を開始していました。当時、当館にはオス・メスのジュゴンを飼育中で繁殖計画を進めていましたが、この調査計画途中にメスが死亡したため、その目的にメスのジュゴン1頭を連れて帰ることが付け加えられていました。

1985年9月に調査を開始。8人乗りのアイランダーという小型飛行機を使って空から観察を続ける一方、潜水してフイーディングトレンチ「ジュゴンが海草を食べた跡」を調べて餌として必要な海草の種類を推定するなど、準備を進めました。分からないことが多いまま、捕獲計画を実行に移し、数回ジュゴンを網の中に入れることができましたが、想像以上の機



エルニドの海。奥にエルニド村が見える。



マニラから名古屋への飛行機の中で。多くの人たちに見守られてセレナはやって来た。



セレナ専用のゲージ(囲い)が用意された。特製の授乳器具。幼いセレナのために工夫が凝らされた。セレナに授乳するフィリピンスタッフ。



鳥羽水族館へ到着したセレナ。



ジュゴンの餌として必要な海草の調査。

調査開始から10年、二世誕生が次の目標。

敏さや力を示して逃げられたり、ようやく引き上げてみるとオスと判明したりで2カ月かかって貴重なデーターは残ったもののメスの捕獲という目的は達成できず、一旦中止することになりました。

翌3月、方法を変えて再度挑戦しましたがこれも失敗に終わりました。3度目の活動がその年の9月末に開始され、ついに10月10日セレナと出会うことになったのです。引き上げてみると思ったより小さく、身長150cmの幼いジュゴンでした。成長しても無傷のジュゴンが多いのにセレナはサンゴで傷付いたと思われる古い傷が多く、フジツボも付着していました。どうやら、なんらかの理由で母親とはぐれたようです。誕生直後のジュゴンの体長は1000〜1100cmなので、それから推定すると生後5カ月頃と思われ、ミルクと海草の両方を必要とする時期でし



セレナに授乳する著者。

ミルクを与えるためには、まず私たちと彼女のスキンシップをやらなければなりません。そこでそのためにふさわしい大きさのケージ(囲い)をつくりミルクの調査や授乳器具を工夫することから仕事が始まりました。10月14日、4m四方の浮きケージが完成しセレナを収容。授乳を試みましたがミルクは口の外へ流れ出るだけでした。何とか飲ませようと苦心していた時、口の中に海草を発見。海底に自生している海草・マツバウミジグサを自分で食べていたことが分かりひと安心しました。その後、工夫を重ねた人工乳首もうまくいき、ミルクの調合の具合もセレナに気に入ってもらえるようになりしました。それと並行して馴致訓練も始めました。最初は潜った私たちを警戒しましたが、少しずつなれるとともにセレナの方から近づいてくるようになりました。

きて特に足の間をくぐって遊ぶのを好むまでになりました。もちろんすべて順調というわけではなく、台風に見舞われて危機一髪でセレナを救出するというハプニングなどもあったのですが、ひとつひとつを共に乗り越えることで私たちとセレナの信頼関係は深まることになりました。

そのようにして約6カ月、エルニドで過ごしたあと、いよいよ日本へ輸送することになりました。水中で生活する動物を空中輸送するのはそれなりの準備が必要となります。水中から取り上げたりボートに乗せたり訓練を入念に行いました。そして、1987年4月15日、日本へ輸送することになったのです。まず、ボートから飛行機へ、マニラ空港から別の飛行機に移され、さらに名古屋空港でトラック

に移動、十数時間を費やしてセレナはようやく鳥羽に到着しました。みんなの心配をよそにセレナ

はゆうゆうとプールで泳ぎ、居合わせた人々の胸を熱くしました。一時、餌が変わったことや授乳量が減らしたことなどのため体重が減少したもののセレナはすくすくと育ち、45kgだった体重が8年後の現在340kgにもなっています。昨年3月に完成した新しいプールはいつでもオスのじゅんいちと同居できるようになり、2世誕生計画にまでこぎつけました。最初の調査開始からここまでほぼ10年が経過していることに気がつき感慨深いものがあります。

母親とはぐれた頼りなげだったセレナの保護飼育を通して得たものは大きいものでした。エルニドの人々やフィリピン政府のスタッフの協力なくしてはこの計画は進まなかったでしょう。難しいとされていたジュゴンの長期飼育に成功したので、次は2世を誕生させることが目標となりますが、実現するならば協力してくれた人々への恩返しともなり、激減していくジュゴン保護対策にもなんらかの貢献ができるものと意欲を新たにしています。

(初めての同居の様子は、24ページに掲載。)

海の生きものたちに 出会いたくて

「9」伊勢湾のスズメ

●写真・文／飼育研究部 若林 郁夫 ●

4月13日晴れ、ようやく春らしい日
が私の休みと重なりました。こんな素
敵な日にこそ海の生きものたちに出会
いに行かなければ、そう思って私は伊
勢湾フェリーに乗り、一か八かスズメ
を探しに出かけてみました。

さて、スズメというと何だか怖そう
な生きものにも聞こえますが、実は鳥
羽水族館の人気者、スナメリのこと
です。スズメという呼び名は伊勢湾周
辺で漁師たちが使うスナメリの方言な
のです。スズメは外国の海にもいますが、
日本では宮城県の仙台湾を北限とする
南日本の沿岸に生息しています。他の
イルカ類と比較すると非常に岸近くで
生活するため、私たち人間にもっとも
身近なイルカ類ともいえるでしょう。
東京湾や大阪湾でもしばしば発見され
ているようですし、伊勢湾や瀬戸内海

は有名な生息海域です。

さて、鳥羽港発13:45の師崎行のフ
エリーに乗り、私のスズメ探しが始ま
りました。乗船すると私はさっそく望
遠レンズの付いたカメラを首から下
げ、偏光グラスをかけ、甲板に立つて
首をゆっくりと左右に動かしながらス
ズメを探しました。そう、ちょうど扇
風機のようにです。実をいうと、私は
昨年の11月にもT・S・Aのためにスズ
メ探しに出かけたのですが、その時は
空振りに終わっています。なにしろ他
のイルカとは違ってスズメには背びれ
がありませんから、少しでも波があっ
たりすると見つけるのがたいへんなの
です。しかし今回は鏡のように海が静
かですし、スズメがいれさえすれば必
ず出会えるはずですよ。あつ、その時：
違う違うゴミでした。あつ、その時：

違う違うカモメでした。そんならはら
らどきどきを繰り返しながら、ちょう
ど鳥羽と師崎の間あたりに来た時の
ことです。14:20、フェリーの真横約
200mにちらりと動くものを見つけ
ました。何だろ、扇風機状態の首振
りを止め、さつき何かが目に入った辺
りをもう一度確認してみました。

いたー！スズメです。太陽の光りを
反射して白く輝く滑らかな背中が海面
から数回飛び出しました。私はあわて
てシャッターをきりましたが、スズメ
はあつという間にはるかかなたへ消え
去ってしまった。200mも向こ
うに一瞬みえただけのスズメでした
が、野生のスズメの姿は私を久し振
りに興奮させてくれました。その後も師
崎までの航路、帰りの師崎から鳥羽ま
での航路を私は扇風機状態を続けたの
ですが、結局スズメに出会えたのは一
回だけでした。

残念ながら、できあがった写真には
海が写っているだけの始末で、ちょっ
とがっかりもしたのですが、毎日眺め
ている身近な海にスズメが喜らしてい

ることを改めて実感することができま
した。しかしスズメは私たちの身近に
暮らすゆえに、人間生活の影響を真
つ先に受けてしまうイルカ類ともいえ
ます。最近の伊勢湾は生きものも住め
る状態を何とか保ってはいけるよう
ですが、大型船や漁船が数多く行き交
い、たくさんゴミが浮かぶ伊勢湾は、ス
ズメたちにとって快適な生息環境とは
いえなんでしょう。現にお腹にたくさ
んのゴミを飲み込んだスズメが流れ着
いたことも聞いていますし、尾にひも
がからみついた赤ちゃんスズメの死骸
を私自信もみつけたことがあります。
今のままではスズメたちの将来は、明
るいものとは言えないでしょう。いつ
までもスズメたちの元気な姿を見るこ
とができるように、私たちも考えなけ
ればなりません。

以前、伊勢湾フェリーの船長さんと
お話する機会があり、スズメがよく見
られるのは夏だと聞きました。皆さん
も是非、身近な海に暮らすスズメ探
しに挑戦されてみてはいかがでしょうか。

P.S 4月27日、再度スズメ探しに
挑戦したところ、フェリーの真横10m
に母と子の2頭を発見しました。



野生のスズメの背中は一瞬しか見えない。(1993年、鳥羽湾で撮影)



- 日本各地のスナメリの呼び名
- 伊勢湾…スズメ・ボウズ
- 和歌山県北部…ナメクジラ
- 瀬戸内海…ナメウオ・ナメソウミボウズ

● 有明海…ナミノウオ

デゴンドウ



鳥羽水族館で飼育中のスズメ(スナメリ)。

自然あふれる三重の水辺を巡る

三重の水辺紀行

— 第9回 水田の広がる水辺 —



風に揺れる小さな稲、
どこからともなく飛んでくるモンシロチョウ…。
春の水田は心がなごむ。

こいのぼりが青空に泳ぐ頃、冬の間、閑散としていた田ぼにもいつのまにか水が引かれ、眩しい水田へと変わっています。ここ三重県では、まだこの市街地からでもほんの少し車を走らせれば水田の広がる美しい風景を目にすることができます。

順序よく植えられた稲が頼りなげに風に揺れ、そんな稲の間をたくさんのおたまじゃくしが泳いでいます。暖かい日ざしの中、遠くで聞こえるウグイスの鳴き声を耳に、湿ったにおいのするあぜ道を歩くと、鮮やかなピンク色のあざみの花や、どこからともなく飛んでくるモンシロチョウがいつしか穏やかな気持ちにしてくれます。勢いよく流れる水路の水は躍動的にあふれ、草の生い茂ったゆるやかな流れの水路をのんびりとイモリが歩き、そしてまだ小さな稲の回りをすいすいとアメンボが通りすぎていくひととき。

冬の間休んでいた大地や生きものが一斉に活動を始めるこの時期、目に映るすべてのものが生きる力にあふれているように感じます。

また、今はまだ小さなこの稲が秋には黄金色の穂をつけ、豊かな実りをもたらすことが偉大に感じられます。

日本人の主食であるお米。そのお米が作られる水田は、昔から人々にとって身近な場所でした。そしてそこにすむ生きものたちもまた身近な生きものとして昔から親しまれてきました。

心を和ませてくれる水田の美しい風景とそこに住む生きものたちと出会える喜びを、いつまでも大切にしたいものです。



カワニナ



たくさんのおたまじゃくしは、そのかわいらしい動きを見ているだけで楽しい。



イモリ



一面の緑はそれだけですがすがしい気分になる。



トノサマガエル



緑の中、あざみのピンクが心に残る。

見たことありますか？
ゲンゴロウ、タガメ、コオイムシ…

水生昆虫コーナー オープン

日本の水辺の美しさを再現した日本の川ゾーンに、3月27日水生昆虫コーナーがオープンしました。日本の川の大水槽と向かい合う場所にできたこのコーナーの水槽は、幅5.40m、高さ65cm、奥行42cmの水槽を6つに仕切り、それぞれ水生昆虫が住む自然の環境をそのまま再現したものです。

水生昆虫とは一生あるいは一生のうち一時期を水中で過ごす昆虫のことで、現在はゲンゴロウ、ミズカマキリなど14種類（表参照）をご覧いただけます。そのユニークな名前からよく知られているゲンゴロウやタイコウチも、水中で生活する彼らの様子はめったに目にすることはありません。それだけに今回の展示はたいへん興味深く、新鮮な感動を与えてくれることでしょう。

〈展示水生昆虫一覧〉

- タイコウチ
- オオコオイムシ
- ミズカマキリ
- ヒメミズカマキリ
- タガメ
- マツモムシ
- クロスジギンヤンマ（幼虫）
- コオニヤンマ（幼虫）
- オオミズスマシ
- ヒメゲンゴロウ
- クロゲンゴロウ
- コシマゲンゴロウ
- ゲンゴロウ
- シマゲンゴロウ

（4月現在）



ゲンゴロウ



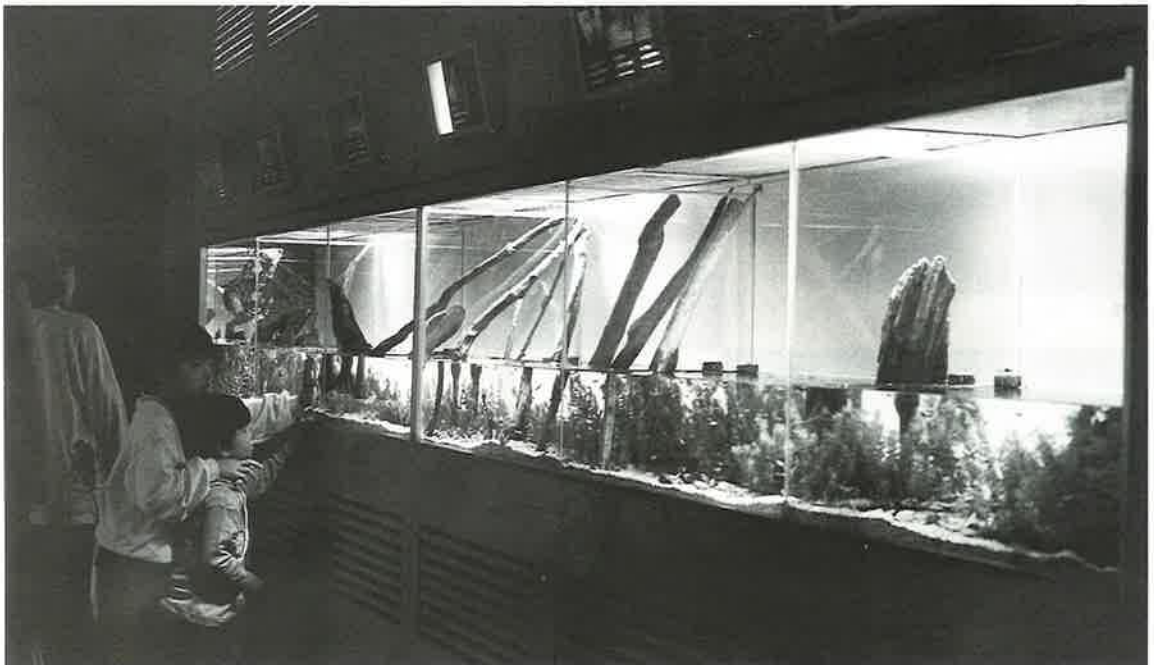
コオイムシ



タガメ



タイコウチ





脊椎動物においては一般的に、一夫多妻制 (polygamous) を示す種では性差や性的二型 (訳者註1) が顕著ですが、生物学的に一夫一婦制 (monogamous) を示す種ではその差が最小限におさえられています。このことについては、鳥類や哺乳類もサンゴ礁魚類と同じです。

哺乳類における性差は、形態的な特徴をもつことで表現されていることが多いようです。ライオンのたてがみや、クワガタムシのオスの大きなアゴ、セイウチのオスの牙などは分かりやすい例でしょう。

一方、サンゴ礁魚類や鳥類における性差は、色彩の表現によるところが大きいです。(一色性：訳者註2) 夫多妻制をとるほとんどのオスは、くすんだ体色のメスに比べ、明るく、目立つ体色をしています。もちろん、例外もあってタマシギという川や沼に生息する小さな鳥では、メスの方がオスよりも鮮やかな体色をしています。

一夫多妻制の動物では、オスであることを示す鮮やかな色彩は、彼の近辺もしくは遠方に生息しているメスとのコミュニケーション手段としての意味をもっています。繁殖の準備ができているメスは、種特有のオスの求愛行動に魅かれることになっています。ですから、乱雑な繁殖システムを持つ (Promiscuous) ヤマブキベラのオスはその鮮やかな体色をつかい、メスに求愛するのです。

一夫一婦制の動物では、オスとメスがほとんど恒久的といえるペアを形成

サンゴ礁魚類の産卵 [9]

オオヒレテンスモドキ

Dragon Wrasse *Novaculichthys macrolepidotus*

文・写真：ジャック T. モイヤー 訳：前田 広士



ジャック T. モイヤー (海洋学者・環境教育コンサルタント)
1929年米国生まれ。
ニューヨーク州コルゲート大学卒業後、徴兵、来日。三宅島の自然に出会う。帰国後ミシガン大学修士課程を終了し再び来日。東京大学博士課程では三宅島を中心に魚の研究を行う。現在まで主にサンゴ礁の魚についての学術論文を200以上発表。
●日本魚類学会 評議員
●国際自然保護連合 種の保存委員会野生生物の持続可能な利用委員
●三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館 環境教育顧問
●鳥羽水族館顧問
主な著書：「モイヤー先生、三宅島で喜らす」どうぶつ社
「子どもとはじめる自然 (冒険) 図鑑8 海を楽しむ」岩波書店
「さかなの街～社会行動と産卵生態～」
中村宏治共著 東海大学出版会



頭を下方にむけ、海草に隠れているメスの上部で求愛行動をするオス。(メスの頭部がオスの尻ビレの下に見える)
訳者註1) 性的二型：オスとメスで形態や色彩などにより差があること。
訳者註2) 二色性 color dichromatism：同色のオスとメスの体色が際だって異なること。
訳者註3) 淘汰圧 selective pressure：自然淘汰という考え方における様々な要因の圧力のこと。生存に貢献する形質が次世代に受け継がれる。環境や性など様々な要因があるが、この場合は捕食者による淘汰を示している。

す。鮮やかな体色を持ちながら、藻場などに暮らす魚類は短命です。なぜなら、いつもこのような地域で餌を探すアカカマスのような捕食者に簡単に見つかってしまうからです。

オオヒレテンスモドキ *Novaculichthys macrolepidotus* は海草の生い茂る環境での生活に適応した種といえます。この魚は、上からほとんど姿を見ることができない、生い茂った海草の中で長距離移動をしながら餌を探ります。

私は、これを「concealed mobility」(潜伏移動性)と呼んでいます(前号、第8話参照)。この魚の高度に発達した潜伏移動性は、オスとメスに海草の中で多くの出会いをもたらすという結果を生みました。ハーレムを維持することは、海草の中のメスの潜伏移動性のために困難ですから、乱婚型の繁殖システムをもつようになったというわけです。

し、日々ともに暮らし、餌を探すことなどで「絆(きずな)」が補強されていきます。ですから、性を示すための鮮やかな色彩は不要ということになるので

きまずね。しかし、一夫多妻制の中にも程度にはいろいろあって、乱雑性のオトメベラやヤマブキベラ、カミナリベラなどはハーレムをつくるニセモチノウオなどよりも目立っています。

このことを考慮に入れると、サンゴ礁魚類における性差は、一夫一婦制で複数のメスと繁殖行動をしない種(オスが継続的に同じメスと繁殖行動をする)よりも、乱雑に繁殖する種(オスが複数のメスと繁殖する)の方が「目立ち度」が大きいことは容易に想像で

さて、進化の過程において捕食者からいかに逃れるかということは重要な淘汰圧(訳者註3)といえます。一夫多妻制のオスは岩場やサンゴ礁に生活するため、砂地や藻場などの隠れる空間のない地域で生活する種よりも、鮮やかな色彩を獲得することができま

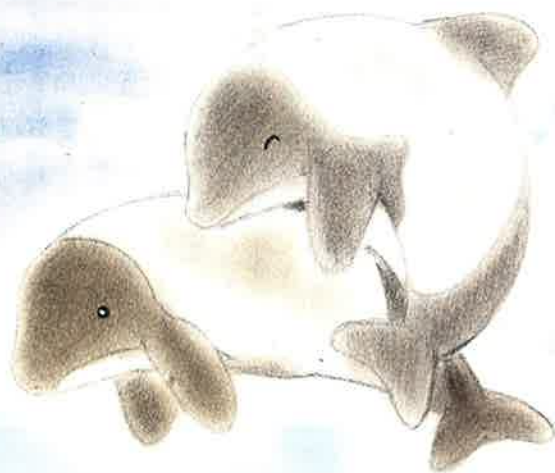
オオヒレテンスモドキのオスは、サンゴ礁などに生息する一夫多妻制の魚のような鮮やかな体色は獲得できなかったので、目立った求愛行動をとることができません。また、背中の後方にかけて栗色の斑点があることを除けば、オスの体色はメスとほとんど変わりません。求愛行動は、「頭を斜め下に向けて海草の2/3センチ上方を泳ぐ」というとてもシンプルなものですが、産卵は毎日、日中の満潮時、ゆるやかな流れがある時間帯に行われ、その後起こる外海への潮に受精卵を乗せて捕食者から遠ざけるのです。

●鳥羽水族館ぐるっと一周

ゾーンの人気者案内リレー

vol.14

鳥羽水族館では環境や生物の生活などをテーマに館内を分けています



白と黒の鮮やかなコントラストがきれいでしょ！
今回はぼくたちのコーナーを紹介します。



イロワケイルカ



3頭仲よく泳ぐイロワケイルカ



「極地の海」ゾーンで会える動物たちの中に、ぼくたちイロワケイルカがいるよ。ぼくたちの体の色は、白と黒の2色。パンダみたいでしょ？

ぼくたちが鳥羽水族館にやってきたのは、今から8年前の1987年の事なんだ。ぼくたちの故郷は日本から遠く離れた南米のマゼラン海峡のあたり。そこからぼくたちは飛行機や車を使って約50時間もかけてやってきたんだよ。

ぼくたちはイルカの仲間でも体の小さな種類で、1m40cmくらい、体重だって40kgしかないんだよ。「伊勢志摩の海・日本の海」ゾーンのスナメリよりも一回りほど小さいかな？

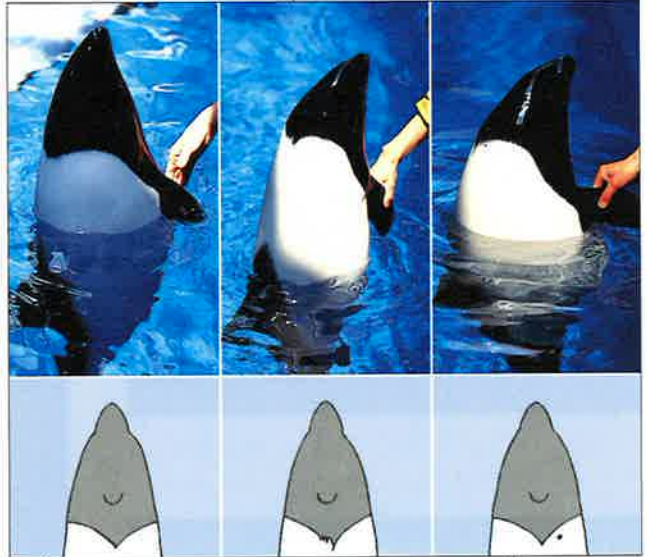
おっと、自己紹介がまだだったね。ぼくたち3頭（オス2、メス1）にはそれぞれ「クロベアー」、「ライナー」、そして紅一点の「パルカ」という名前がついているんだよ。パルカは去年（1994）の7月に初めての出産をしたんだけど、残念な事に赤ちゃんは死んでしまったんだ。一時は寂しそうにしていたパルカだけれど、今ではすっかり元気になっているよ。

イルカの仲間は好奇心旺盛で、遊び好きな頭の良い動物だと言われているけど、ぼくたちイロワケ



●ライナー〈オス〉●

朝一番のエサは低血圧(?)で不機嫌なのか、あまり食べない少々気むずかしいところがある。



今のプールじゃ
見てもらえないけど、
ぼくたちジャンプも得意
なんだ。



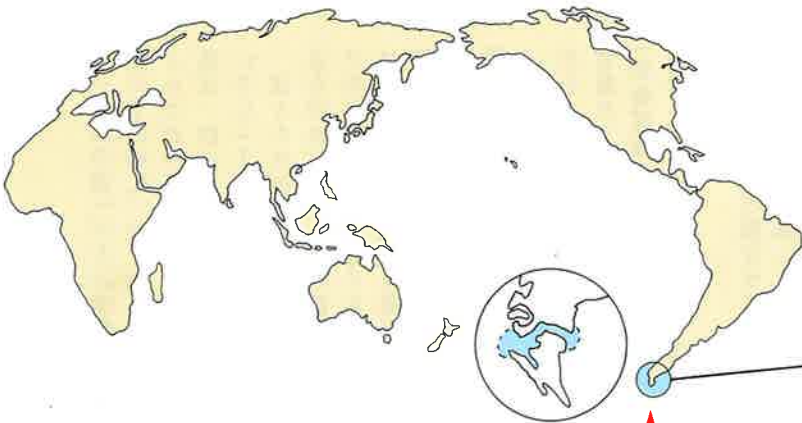
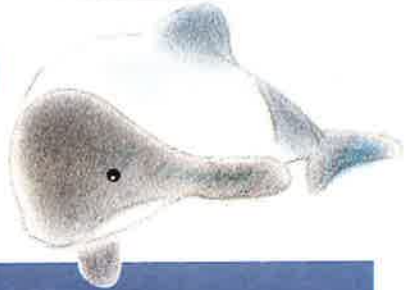
●クロベアー〈オス〉●

怒るとブウブウ鼻をならす、ちょっと変わったくせを持つ。他の2頭ができるランディングがどうしてもできず、現在、特訓中。

●バルカ〈メス〉●

3頭の中の紅一点。何にでも興味を示し、好奇心が旺盛。ジャンプが得意。ガラス面に寄ってきて、お客さんによく愛敬をふりまく。

遠く離れた
マゼラン海峡から
ぼくたちはやって
きたんだよ。



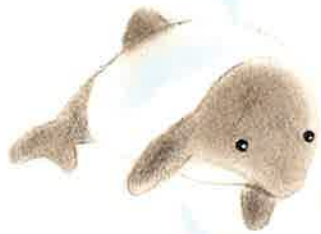
マゼラン海峡



マゼラン海峡

鳥羽水族館ぐるっと一周

ぼくたちは
こんなことだって
できるんだよ。



寒いからちゃんと
フードをかぶって
潜水するんだ。



飼育スタッフの
皆さんです。



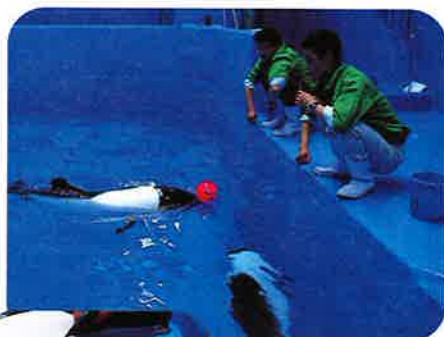
今井 朋子



若林 郁夫



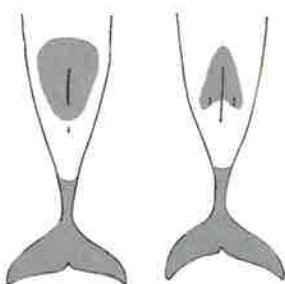
ランディング



ボール運び



お腹を見せる



オスとメスではお腹の様
がちがうんだ。左がオス、
右がメスの模様だよ。

●オスとメスの見分け方



さて、右のイロワケイルカはオスかな、メスかな？

イルカだって負けちゃいけないよ。ほら！見て見て！プールに入っているボールを使っているんなことが出るんだ。口の先でついでにみたり、尾ビレでつけてみたり、胸ビレで運んでみたり……どう？すごいでしょ。そしてぼくたちのとっておきの得意技は、何と言っても「ジャンプ」。ぼくたちの格好良いジャンプ姿は、鳥羽水族館の本やポスターになったりもしているんだよ。以前の本館プールでは、皆さんにその勇姿を見てもらっていたんだけど、今のプールでは見てもらうことが出来なくてちょっと残念だなあ。

ぼくたちの泳いでいるプールの水温は12〜13度なんだ。「さむそお〜」って声が聞こえて来そうだけど、へっちゃらさつ。時々、プールの清掃をするために飼育スタッフの人たちが潜水するんだけど、寒さから体を守るためにすごい格好をするんだよ。そんなにこの水って冷たいのかなあ。

3頭仲良しのイロワケイルカ、皆さんが来るのを待っているから、ぜひ会いにきてね。

SAVE OUR NATURE

We must be thinking now about THE EARTH.



カエルが地球を優しく抱いているイラストは鳥羽水族館のSAVE OUR NATUREキャンペーンのシンボルマークです。このコラムでは、毎号の各ゾーン紹介に関連した地球環境の話題をご紹介します。

15

コククジラ

●日本鯨類研究所 大隅清治

昨年暮れのテレビで、関西テレビがその年の秋に取材した、オホーツク海の数種の高齢類の迫力ある映像が放映された。その中で私が最も注目して見たのがコククジラであった。私はその前年の夏に東海テレビの取材班に同行し、ロシアの海洋調査船に便乗して、コククジラ存在を確認すべくその海域を訪れたものの、濃いガスに阻まれて、取材に失敗した経験があるからである。

コククジラは今では北太平洋の特産の鯨種であり(かつては北大西洋にも分布していたが、この系統は18世紀までに絶滅した)、アメリカ系とアジア系の2つの系統に別れて存在する。そして、アメリカ系は有史以前からアラスカからシベリアにかけての原住民によって利用されてきたが、19世紀の半ばからのカリフォルニア沿岸での商業捕鯨によって大きな打撃を受け、20世紀初頭には幻のクジラとさえ信じられた。さらに、1914〜1943年の近代捕鯨によって回復がはばまれた。しかし、その後の保護の甲斐があつて、1960年代から資源回復の傾向がはつきりと見え始め、現在では繁殖場でのホエールウオッチングと索餌場での原住民生存捕鯨によって共存

して利用されながらも、資源量が25,000頭を上回り、年間3%の割合で増加を続けている。

これに対してアジア系は、その分布域の原住民によって有史以前から利用され、日本では16世紀頃から突き取り式や網取り式捕鯨によって捕獲されたが、年間の捕獲数は少なかったため、その間は資源にあまり大きな影響はなかったと推測される。19世紀末に近代捕鯨が日本に導入されると、韓半島沿岸で捕獲量が急速に増加し、その後資源の減少にともなう捕獲量は減少したものの、第二次世界大戦が終わるまで捕獲が続く、その後は国際捕鯨取締条約に加盟しなかった韓国が1966年まで捕鯨を続けたので、もともと2,300頭と資源量の少なかったこの系統は大きな打撃を受け、資源は絶滅してしまつたかに思われていた。

しかし、最近になって、ロシアの科学者がサハリン島の北東部沿岸とカムチャツカ半島西岸の索餌場でコククジラの生存を確認し、サハリン島では1984年に32頭、1989年に42頭が数えられたと報告した。また、日本でも1982年には鳥羽市沖で遊泳していた本種が報告され(本誌No.12に紹介されている)、1990年には小田原市で漂着個体が採集され、1993年には伊豆大島沿岸で索餌中の個体が撮影されるな



大隅 清治
(おおすみせいじ)

1930年群馬県伊勢崎市生まれ。東京大学大学院博士課程終了。農学博士。鯨類の資源管理のための生態調査、研究に従事し、国際捕鯨委員会・科学小委員会の委員を28年間連続して務め、鯨類資源の保護と合理的管理に向けて努力してきた。現在、(財)日本鯨類研究所専務理事。



コククジラ

撮影：中村剛夫 写真提供：ポルボックス

ど、目撃例が増加しつつある。そして、今回のテレビ取材の成功となった。これらの証拠はアジア系のコククジラは現在決して絶滅してはおらず、むしろわずかながらも資源の回復の兆候が現れ始めていることを意味する。



コククジラはヒゲクジラ類のなかでは例外的に純粹な沿岸性の種類であり、繁殖場も索餌場も、そしてその間の回遊路も岸寄りの浅い海に限られる。しかも、回遊距離は哺乳類のなかで最長の部類に属する。これらの生態的特性はコククジラ資源の保護を困難にしている。このクジラを対象にした商業捕鯨活動はすでに停止しているけれども、沿岸海域は社会開発にともなって、漁業、養殖業はもとより、海上交通、海洋レジャー等の人間活動が活発になされ、沿岸構造物の建設、海岸の改変などが進み、その上に、農業・工業・生活排水の流入により海の汚染度が高まり、光や音による公害ともあいまって、コククジラの生活の場が急速に脅かされつつある。

度にはなされていない。その間の回遊経路も北米沿岸域で、自然が比較的に残されている。これに反して、アジア系群の場合には、繁殖場として想定されている中国の海南島付近の海岸は近年急速に社会開発が進んでおり、サハリン島北東部の索餌場では現在海底石油の掘削が進められており、回遊の経路の海面もアメリカ側に比して環境が悪化している。で、アジア系群の資源の回復と保護には大変に厳しいものがある。その上に、この系群の長い生活圏には中国、日本、韓国、北朝鮮、ロシアが含まれ、保護にはそれらの国の理解と協力が必要であるにもかかわらず、冷戦時代には国際政治関係が微妙で、保護の基礎としての国際共同による資源の実体調査すら実施が阻まれていた。



コククジラは特異な生活をし、進化的に古い体質を保持し、1科1属1種であるので、学術的に貴重な鯨種である。人間はすでに北大西洋系群を絶滅させてしまった。そして、このまま手をこまねいていては、間もなくアジア系群をも絶滅させてしまふであろう。冷戦の終結した現在、この系群の絶滅を防ぐ有効な対策を樹立すべく、国際共同で真剣に取り組むべきである。



生まれて間もない頃



お母さんのくさやを飲む



あどけない顔がかわいい



イカを食べる



貝を割る練習？！



お母さんのお腹の上でお昼寝



ホースで

[2] ラッコ

● 鳥羽水族館の赤ちゃん

● 飼育研究部 古田 正美 ●

5月21日朝、ラッコのチャチャが急死しました。
元気だった時に出来上がったこのページがチャチャを偲ぶものとなりました。とても残念です。

ラッコはイタチの仲間で、海獣の中ではもつとも遅く陸から海へ進出した動物と言われ、餌場である海での生活を進化の過程で獲得しました。前号で佐々木浩氏が紹介しているニホンカワウソともとても近い種

類です。明治時代には北海道沿岸にラッコがすんでいましたが、良質の毛皮をもってゐるために乱獲され、明治44年には日本近海からその姿は見られなくなりました。その後国際条約により保護されここ10年前頃よりクリル諸島より北海道東岸へやってくるようになりましたが、その頭数はごくわずかです。

鳥羽水族館では1983年10月3日にラッコの飼育を開始し、その5ヵ月後の1984年2月23日に赤ちゃん

ん「チャチャ」が誕生しました。病氣やけがで飼育係を悩ませながらもイタズラ好きなチャチャはもう11才になりました。

当時を思い起こせば日本で初めてのラッコ誕生で、ラッコの飼育方法さえ十分つかない時期であり、妊娠すら気付かず突然の誕生で飼育係は全く手さぐりの飼育でした。しかしながら、母親ラッコは赤ちゃんの世話を四六時中おこなない、自身の毛づくろいもせず、お腹の上

に赤ちゃんを乗せおっぱいを飲ませ、排便を促すために尻をなめ、寝かせ、赤ちゃんの毛づくろいをする様子は感動の連続でした。また、母

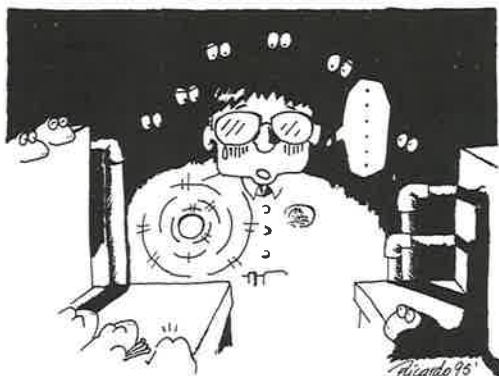
親が餌を食べる時には赤ちゃんを水面に浮かべてはいますが、目は赤ちゃんに向けられ、飼育係さえ信用しない様子で母親ラッコの赤ちゃんに對する愛情ははかりしれないものがありました。誕生後27日目には赤ちゃんが餌に興味を示しはじめ離乳が始まると、母親ラッコは自分が食べている餌を赤ちゃんに与える感動的シーンが毎日見られました。

その後、鳥羽水族館ではラッコの赤ちゃんに恵まれていませんが、1994年にはオホーツク水族館生まれの5歳のオスと野生から若いメスを新たに迎え、現在6頭のラッコで十数年ぶりに赤ちゃんが見られるように挑戦しています。

『Breeding Keeper 24h (飼育係24時間)』

■飼育研究部 松本リカルド剛■

鳥羽水族館は年中無休、365日営業している。美しい動物や水槽を見ていただくため、飼育係は毎日お客さんの目から見えない水槽の裏側(バックヤード)でセツセツと仕事をしている。水槽の上からガラスを掃除しはじめる飼育係の手が突然水槽にでてきて、びっくりしてしまうお客さんがいれば、水面から餌が落ちてくると、「あつ、餌の時間だ！わあ！すこお！い！」と喜ぶお客さんもいる。飼育係の仕事は餌の準備、動物の給餌、設備の点検、水槽の掃除、動物のトレーニングや観察などの日中の仕事だけにとどまらない。閉館後も飼育係は仕事を続けているのだ。設備に異常がないか、動物に異常はないか、飼育係は最終の見回りにかかる。または、水槽の掃除をやる事もある。設備に關しては、これらがいつ故障してしまうか分からない。もしも大事な装置が壊れてしまうと、水槽の環



境が乱れて動物がすめなくなる事もある。そこで、日中の仕事を終えた後、飼育係の男性が交代で宿直にあたって水族館の動物を見守る重大な仕事に取りかかる。私が初めて宿直をやったとき、

入社してからまだ1年もたっていない。一人で館内を巡回するのはとても不安だった。館内はもう誰もいないし、水槽を照らすライト、バックヤードやお客さん側の通路の明りがすべて消されていた。「よし、仕事だ！仕事だ！」と心の中で強く叫んで巡回を始めた私だった。巡回中に気を付けなければならぬ点がいくつかあった。一番大事なのは、哺乳類や魚類などの動物がびっくりしないように懐中電灯で水槽を照らさない事。特に、海水魚や淡水魚の場合、水槽に近寄るだけで警戒してあばれる事もある。

以前、私が温室(両生類や爬虫類が飼育されている場所)の中で巡回していた時に、こんな事があった。温室の中央にはいろんな淡水産カメが流木の上で目を閉じてジーと眠っていたが、その水槽を通り過ぎたあとバシヤッと言う音が聞こえてきたので慌てて見に行

くと、どうやら私の存在に気付いたカメたちが流木から落ちてしまったらしい。「ごめんなあ」と言いながら私は巡回を続けた。しかし、夜の出来事はこれで終わらなかった。カエルの水槽をチェックした後、バックヤードに入り、ろ過槽やポンプを点検していたその時、突然自分の前に一匹のカエルが飛び出してきて、あまりの驚きに水槽の台で頭を打ちそうになった。そのあとのカエルを探して水槽に戻す作業は大変であった。「今夜はいろいろあったなあ〜！」と言いながら巡回を終えて一日の仕事がようやく幕を閉じた。

このような出来事、または設備と飼育動物に関する様々なトラブルをこえながら、我々飼育係はこの水族館の歴史と共に成長していくのではないかと。さて、あと一カ月たてば再び宿直がまわってくる！次回も何かが起きるのかなあ〜？

戦前の博物学者には、海外にたとき、詳細をきわめた紀行文をつづるといふ美風があった。東京大学の谷津直秀博士は『生物紀行』（昭18刊）を著し、当時すでにさびれかけていたナポリ臨海実験所の水族館のありさまを伝えてくれたりする。しかし圧巻は、昭和5年に欧州の生物研究所を歴訪した小泉丹の『生物学巡礼』（昭11刊）ではないだろうか。ここには水族館に関する興味ぶかい報告も載っている。

小泉が欧州を旅した昭和5年は、西暦一九三〇年にあたるが、水族館史の第二ラウンドともいべき動向がみとめられた時代だった。いわば、福沢諭吉が第一ラウンドの欧州水族館を見物し、日本にそれを紹介したことに同じ役割を、小泉は第二期に果たした。そういういえば小泉丹も慶応大学で教鞭をとった進化生物学者であった。

「動物園でアクアリウム、テラリウムを建設することに先頭したのは伯林の動物園であって、一九一三年に堂々たるものを造営した。其は名はアクアリウムであるが、その三層造りの建物にはテラリウムもインセクタリアウムもあり、熱帯植物の茂った、頗る壮大な鰐魚池もあった。ロンドンの動

荒俣宏の水族館史夜話

うたかたの夢



開館当時のホノルル水族館
(現在のワイキキ水族館)
熱帯の霏田気が漂う。

[3]



荒俣 宏（あらまた ひろし）

1947年生まれ。

慶応義塾大学法学部卒業。

博物学、幻想文学研究者。

著書に日本SF大賞を受賞した『帝都物語』をはじめ、『世界大博物館鑑』（平凡社）

『アクアリウムの楽園』（角川書店）など多数。

物園は、動物の種類は豊富なことで著名であったが、型式は至って旧式で見劣りがしていた。然るに大戦後数年の間に施設の方面にも大発展をして、世界一と自称するアクアリウムを建て、更に頗る立派な肥蟲館を造営して、断然斯界をリードする位置を占めた観がある。

ところで、ゴッスらが実現した植物を利用する調和水槽システムに代わって、この時代につくられた水槽はどのようなものだったのか。手本になったベルリン水族館では、砂を使った濾過槽と人工海水を使用しており、小泉も「やはりドイツ人の頭で造ったものは違う」と納得している。一方ロンドンでは、オーナーの動物学協会会長のC・ミッチェルと水族館長E・G・ブランジエがヨーロッパ最新の水族館を視察し、一九二二年にアクアリウムを起工した。海水はビスケー湾から運んできて使っているが、あらたに温度調節や給気システム（圧搾空気利用）が活用されている。

この新設備により、アクアリウムは魚介類だけにとどまらず、両生・爬虫類および昆虫などの展示にも力をいれだした。小泉はこれを新しい傾向として日本に報告し

ている。

だが、小泉丹の水族館巡礼には、もうひとつ、注目すべき新情報が含まれていた。それはハワイのホノルル水族館が採用したプロジェクトである。

「…ナポリのアクアリウムは、右にいった傾向（爬虫類や昆虫も展示する傾向）とは違って、ナポリ湾の豊富な海棲動物に限って供覧することを建前としていた。ホノルルのワイキキにある美しい熱帯魚を見せるアクアリウムは、この式の極端なものというべきであらう」

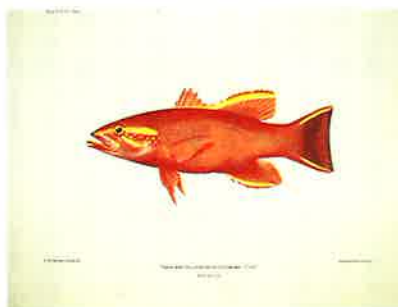
欧州の水族館には、ナポリ臨海試験所やモナコ海洋研究所のように地元海域の魚類を研究する施設の一つとしてアクアリウムを設ける方向があった。ところが、世界で初めて熱帯サンゴ礁海域にできたホノルル水族館は、ナポリやモナコと同じく地元魚を展示してはいるものの、研究ではなくエンターテインメント（娯楽）を目的とした営利水族館なのである。当時モナコやナポリは閑古鳥が鳴くアクアリウムであったが、ホノルル水族館は熱帯リゾートの波に乗って大人気を博した。実は、このホノルルこそが新しい水族館の道を示した施設であったことは、小

泉丹による次の文章が雄弁に物語っている。

「ハワイのワイキキの浜にあるアクアリウムは、色彩の美しい熱帯魚を見せて木戸銭をとるのが目的で、本来の水族館とは精神が違ふから、別物である。ハワイには

だが、最近、昭和十一年に出た邦

文のハワイ観光案内にこの「グラスポート」を紹介した一文も発見した。それによると、一九三六年段階では裏オアフのカネオヘ湾にあるコーラルガーデンに、観覧用グラスポート二隻が出ており、柳



ホノルル水族館発行の熱帯魚図譜より2点。

上：ハワイアン パスレット

下：フエヤッコダイ

フエヤッコダイは日本人画家モリタ・カコによって描かれたもの。

ポートに客をのせて海上に出て、そのガラス張りから水中に遊泳してある、色彩の悪い魚の群れを見せるのがある」

この一文により、サンゴ礁のグラスポートは、やはりハワイが発祥の地であった事実がわかったの

原ブラキという日系人が経営していることが判明した。きわめて興味ぶかい事実である。

ちなみにホノルル水族館は一九

〇四年、チャールズ・M・クック夫妻により建設され、ホノルル・ラピッド・トランジット・カンパニーと

いう輸送会社が経営にあたった。初年度は約五万人の入場者があったから、熱帯の島という地理的条件を考えると、大成功だろう。この一年で入場料収入が一二五〇〇ドルある。水族館の建設費は二〇〇〇ドル強だったそうだから、二年で建設費分は回収できた計算になる。

このホノルル水族館は開館当初から、美しい熱帯魚の図譜を刊行した。ハワイ産魚類を描いた二十種のカラー図版は、一枚一ドルで売られた。これは一九〇三年にスタンフォード大学のD・S・ジョルダンが刊行したハワイ産魚類報告の挿絵を転用し、うち一枚は日本人画家モリタ・カコによるフエヤッコダイの絵である。

当時この水族館に熱をあげた作家ジャック・ロンドンの印象記を、最後に引用しておく。この感激ぶりは、たぶん誇張ではないだろう。「これほどおどろきにあふれた色と形の饗宴は、夢にも予期しなかった。アクアリウムを訪れるたびに、何時間も至福の時をすごし、帰るときには文字どおり、身を裂かれる思いがした」

リュウグウオキナエビス

〜生きている化石〜

■磯和 誠

鳥羽水族館には、生態をみなさんにご覧いただいている生きている動物たちだけでなく、化石やハク製など動かない標本がたくさん収集されています。このコーナーは、そんな標本たちの物語を紹介していくコーナーです。



リュウグウオキナエビス
割れているように見えるスリットが、
オキナエビスの仲間の特徴。

オキナエビスガイの仲間はその体の構造などから巻貝中最も原始的な貝と言われています。古生代、中生代にはたくさん種類がいて数千種の化石が発見されているのですが現在生きているのはわずか20数種類で、1856年に西インドの小アンチル諸島でヒメオキナエビスが得られるまでは絶滅したと考えられていました。ところが日本では1775年に「あげまき」の一種としてオキナエビスが文献に登場しています。これが世界最古の記載ですが学名がないので正式なものとはなりません。江戸時代の別の文献にオキナエビスという名が載っていてこれが和名となりました。ちなみにオキナエビスとは年をとったエビスガイという意味です。それにしても恐竜が天下を取っていたころから絶滅することなく生きてきたのですから「生きている化石」と呼ぶに

ふさわしい貝といえましょう。また、明治の中頃このオキナエビスガイを採った熊さんは謝礼に大金をもらってまるで長者になったようだったと言ったので、この貝を長者貝ともいいます。リュウグウオキナエビスはヒメオキナエビスが発見されてから20年程して見つかりました。この貝はまさに稀産種で戦前日本にあった2個体は戦災で焼失し、写真の標本が戦後初めての標本となります。アメリカのアボット博士は本場に希少な貝というものは存在しない、なぜなら貝は切手やコインと違って次世代を産む能力が有るからといっていません。ただ、コレクターにとって残念なことにこれらの仲間は海の崖下のかんりの深さに生息しているため、めったに採集されないのでしょう。そのため貝は何世紀も前より時に驚くべき価格で取り引きされてきました。その中でも珍貝



飼育に成功したオキナエビス

中の珍貝であるリュウグウオキナエビスが台湾東沙群島で採集され鳥羽水族館に持ち込まれました。その時、購入した価格が1万ドル、当時のレートで360万円もした世界で最も高価な貝となりました。鳥羽水族館が買わなければこの貴重な標本は日本から遠く離れたアメリカに行くところでした。今から26年前のことです。その後、この貝は時々採集されるようになり、価格も落ちてきました。しかし、今でも学術的に貴重な標本であることにかわりありません。

超水族館用語事典

2 エアレーション〜極地の海

●編集…飼育研究部 阪本 信二

え

【エアレーション】…水の中に通気すること。水に空気を触れさせることにより、魚の呼吸に必要な酸素を水に溶け込ませ、足りない二酸化炭素を追い出すことができる。その他に水のよどみをなくしたりする効果もある。これには細かい穴が開いたエアーストーンと呼ばれるものを使う。

【液浸】…死んだものを腐らせずに保存しておくためにホルマリン液やアルコール液に浸すこと。貴重な魚などはこの方法で保存される。当館ではこれらの液浸標本を非常勤顧問・鈴木清先生（三重大学名誉教授・写真）が中心となつて分類などの研究が行われている。



【エサ出し（当番）】…水族館では毎日大量のエサを使っていて、毎日スパーなどでそれだけの量を買ってくるなんてことは当然できない。だから冷凍アジなどを冷凍庫にストックしておく。それを毎朝エサの準備がすぐできる様に、他の飼育係より早く出勤してエサを冷凍庫から出して解凍しておく当番がいる。これは主に飼育係の若い人たちが担当している。通常単に「エサ出し」と呼ぶ。

【エビ網】…イセエビを獲るための刺し網。三重県の志摩地方では10月初めに解禁され、翌年の4月の終わり頃まで続けられる。



—採集—
エビ網で揚がるイセエビではなく、その他もろもろの商品価値のないカニ

類、サンゴ類を採集しに行く事。採集という聞こえは良いが、実はゴミを拾いに行くようなもの。漁師さんが網からはずしてポイントと捨てたカニを『いいものみつけ』と拾い集める。漁師さんにとってはゴミであるが、我々にとつては宝物なのだ。なかにはゴミ箱をあさつて宝探しに夢中になる人さえいる。

【M Z S】…三重動物学会 (Mie Zoological Society) の通称。三重県で誕生した。現在会員は1500人を越えた。年に数回、野鳥の観察会や鳴く虫の音を聞く会等の観察会が開かれている。M Z Sを通してもっと自然のことを知り、自然を守るとういう人が増えてくれることを願っている。

【エントランスホール】…水族館の入口を入つてすぐにある広々とした



ホール。ここは単に入口の大広間ではない。海のホール定期コンサートや水着ショー、お正月にはお琴の演奏までいろいろイベントが行われる。

【塩ビパイプ】…塩化ビニールパイプ。家庭でもトイレの配管などに使われているあれである。水を多く扱う水族館の裏側にはこの塩ビパイプが縦横無尽に走っていて、まさに水族館の縁の下の力持ちなのだ。またこれは短いネットを長くするための柄や、手製の水槽掃除道具を作るのに使われたりと使い道が広い。その他にもいろいろ使われていて『塩ビパイプ作品展』が開けるほど力作が多い。



お

【大アサリ】…御存じラッコちゃんのエサとして使われている貝。本当の名前はウチムラサキ



ガイ。人の食用にも使われ、鳥羽近辺のお土産屋さんなどで焼いた大アサリを食べさせてくれる。みなさんも一度ご賞味あれ。

【オーバーフロー】・・水槽の上の方に流れている水の流れ口。

【オゾン】・・化学記号で書くとO₃。水族館ではオゾンで動物の飼育水に注入して、バイ菌を殺すためや脱色に使う。飼育水の殺菌には、オゾンの他に塩素や紫外線も使われている。

【オリジナルカレンダー】・・毎年発行されている鳥羽水族館オリジナルカレンダー。月ごとにラッコやカエルなどの人気者がかわるがわる登場する。

【温室】・・は虫類・両生類が展示されているゾーン「森の水辺」の別名。冬場でも温かい室温に保たれ、動物たちだけではなく私たちも過ごしやすい。ただ夏場も温かいため、その時期のお客さんは心なしか足早に去っていくようである。



か

【海獣】・・ゴジラやガメラなどの怪獣ではない。読んで字の如く、海の獣、つまりクジラやアシカなどの海にすむ哺乳類のことである。

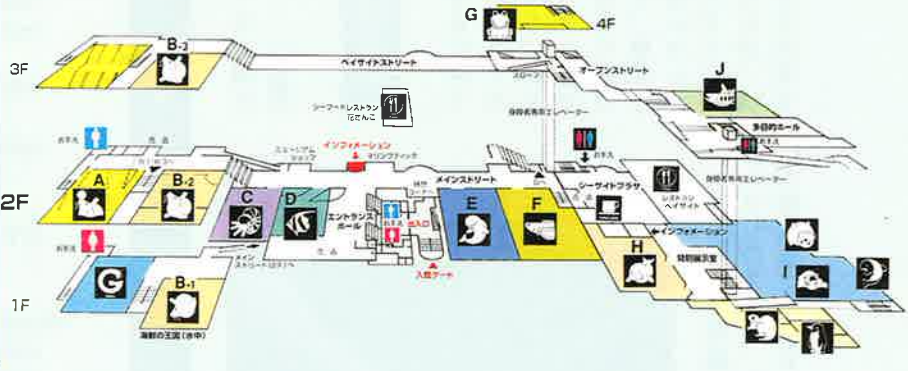
【ガイドブック】・・鳥羽水族館で飼育されている動物、そのゾーンの説明、飼育係の仕事などが詳しく書かれている小冊子。館内のインフォメーションで手に入る。水族館通を目指している人はお手元に一冊ぜひどうぞ。一冊300円は水族館のもうけなし、らしい。



【観察】・・動物の状態、行動などを詳しく見ること。もの言わぬ動物の状態を知るには観察することが基本である。一人前の飼育係になるためにはしっかりと異常をも見逃さない鋭い観察眼を持つことが必須条件だ。

【館内地図】・・鳥羽水族館はどこにかく広い。当館は順路がないので、プラブラと行き当りばったりで見学するのも良い。しかし、時間に制限のある人は入館したら、まず館内案内地図で見学ルートを検討することをお薦めする。

き



いう時にこの給餌棒を使い、魚たち一匹一匹に愛情込めて(?) 餌をやる。

【教養セミナー】・・水族館を訪れる団体のお客様に、館長をはじめ飼育スタッフたちがちよつとしたお話をさせてもらう。場所は館内のレクチャーホール、あるいは宿泊先の宿にまで出かけていく。話の内容は講師により異なり、魚の話あり、カエルの話あり、はたまたクジラの話あり、またビデオや珍しい標本を見たりと実に様々で行っている。

【キューピーさん】・・かわいいキューピーさんはアシカショーに参加している。アシカの鼻先でいつもニコニコしているキューピーさんには悲哀さえ感じてしまう。



【給餌棒】・・魚類の口元に、先に餌をつけて持っていく棒。餌をやる時、底にしているものや、食べるのに時間がかかるどんくさいやつはどうしても餌が当らなくなってしまう。そう



【極地の海】・・極寒の地に生きる動物たちが展示されているゾーン。ラッコ、イロワケイルカ、バイカルアザラシという人気者たちの姿をここで見られる。



出来事

■平成7年2月1日～4月30日

- 2月1日 ●オオベソオウムガイ (1) フ化
- 6日 ●ゴマファザラシ (愛称トマト) 死亡
- 9日 ●オオベソオウムガイ (1) フ化
- 13日 ●バイカルアザラシ健康診断
- 15日 ●アシカショーで確定申告PR
- 19日 ●オオベソオウムガイ (1) フ化
- 20日 ★深海性のイソギンチャクの種類
ヨツバカワリギンチャク (1) 入館
- 25日 ●深海性のサメの一種
ホソフジクジラ (10) 入館
- 3月3日 ●オオベソオウムガイ (1) フ化
- 4～5日 ●当館・レクチャーホールにて
魚類自然史研究会開催
- 10日 ★ジュゴン同居開始
- 11日 ●海のホール定期コンサート
東風を迎えて
- 11日 ●オオベソオウムガイ (1) フ化
- 13日 ●バイカルアザラシ健康診断
- 14日 ●ホシガメ (20)、インドハコスッポン (1)
大阪税関より受諾
- 19日 ●深海性のサメの一種
ホソフジクジラ (18) 入館
- 26日 ●三重動物学会主催
エビ網あとの生物観察会
●オオベソオウムガイ (1) フ化
- 27日 ★ゴマファザラシ (1) 誕生
●水生昆虫コーナーオープン
(本誌8ページで紹介)
- 4月10日 ●アンコウ (2) 入館
- 15日 ●フンボルトペンギン (1) フ化
- 18日 ●フンボルトペンギン (1) フ化
- 20日 ●フンボルトペンギン (1) フ化
- 23日 ●ジュゴン同居再び開始
- 27日～ ★東京国際見本市'95協力出展

★CLOSE UP★

ヨツバカワリギンチャク 入館

2月20日、三重県度会郡南勢町の深海釣りを専門とする民宿の方より、水深300mの深海で採集したイソギンチャクが入館しました。イソギンチャク類の専門家に外見で判断していただいたところ、深海性のヨツバカワリギンチャクではないかとのことでした。たしかに、水槽に収容した後、口の

回りの触手のある部分(口盤)を見ると、ちょうど四葉に分かれているように見えます。イソギンチャクの種を同定するには、ホルマリンで固定し標本にした後、解剖をして体の内部の構造を調べないと正確にはわからないのですが、飼育を基本とする水族館では生きている生物を標本にすることはなるべく避けたいところですが、現在、予備槽で飼育中ですが、元気で生きている限りは本当の名前

はわからない?かも知れません。(帝釈)

ジュゴン同居開始

3月10日、待ちに待ったじゅんいちとセレナの同居を行いました。朝9時、飼育スタッフの見守る中、2頭の仕切り柵が開けられました。最初じゅんいちが遠巻にセレナのまわりをグルグル泳いでいるだけでしたが、慣れてくるとセレナの背中



へ乗りかかると行動が見られはじめました。しかし、2頭共まだ不慣れなせい

か交尾には至らず、24時間後には再びもとのプールへ戻しました。(若井)

ゴマファザラシの誕生

3月27日、午前2時18分に当館で3度目のゴマファザラシが誕生しました。体長70cm、体重8.1kgと標準より少し小さめのオスですが、出産後すぐに動き回っているのを監視カメラの録画で観察されました。母個体は、当館



5月に出版された写真集『海より青い海』
講談社刊(紹介は左ページ下)

■編集後記■

暖かくなりだすと、生きものたちが動き出すのは何も陸上に限ったことではなく、海や川の水の中だって同じことが言えます。繁殖シーズンを迎えて生きものたちの生き生きした姿に出会える。私の趣味であるダイビングの楽しみの一つです。(高村)

『T.S.A.を読んでいろいろ知ってから鳥羽水族館に行くに楽しいです。』というお便りをいただきました。そう、それなんです！生きものに親しみを感じ、もっと鳥羽水族館を楽しんでいただくためにT.S.A.はあるんです。こんなお便りをいただくと100倍元気になれる私です。(酒井)

TOBA SUPER AQUARIUM
1995 夏 No.14

発行人／中村 幸昭

発行所／鳥羽水族館
〒517 鳥羽市鳥羽3-3-6
TEL 0599-25-2555

編集長／中村 元

編集委員／酒井 里絵子
高村 直人

レイアウト／(有) スクープ

印刷／(株) アイブレーション

© 本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。



みんなの地球を大切に！
この本は再生紙を使用しています。

© TOBA AQUARIUM

で初めて出産した母親(愛称サラダ)で、今回2度目の出産に成功しました。母親も2度目とあって子育てもうまく順調に育っています。



定しました。
『海獣の王国』横にある屋上特別展示室で、出産日より展示しています。(飯坂)

水生昆虫次々誕生

3月27日にオープンした水生昆虫水槽で、マツモムシ、ミズカマキリ、タイコウチ、タガメおよびゲンゴロウの計5種が次々と産卵・フ化し、現在順調に成長しています。これらは1〜2ヶ月間の幼虫期に数回の脱皮をくり返した後、成虫になります。



写真はタガメの卵

水生昆虫は、近年の乱開発の影響で、種によってはいちじるしい減少傾向にあります。今回生まれた幼虫を大切に育て、累代飼育をしていくことが今後の目標です。(上岡)

東京国際見本市'95 協力出展

去る4月27日、東京・晴海の国際見本市会場で“東京国際見本市'95”が開幕し、当館もヌメア水族館と姉妹館関係にあることからニューカレドニア観光局のブースに協力出展しました。今回はオオベソオウムガイの他、サンゴ礁の魚などを大小三本の水槽で展示し、東南アジアや中近東の国々の物産が展示の中心となった国際館の中では、ひとときわ注目を集めました。また最終日の30日には、皇太

新刊紹介

子殿下と青島東京都知事も来館されました。(森)

鳥羽水族館のポスターなどの写真の美しさには定評がありますが、それらを中心にした写真集『海より青い海』が講談社から出版されました。(写真右ページ下)

写真は鳥羽水族館オリジナルの他、吉野雄輔、中村庸夫、中村宏治、佐藤宏。文章はT・S・A編集長の中村元。海より深く、広く、青い海を感じるこの出来の一冊です。

鳥羽水族館 スケジュール (1995年4月30日現在)



7月

6月1日～7月18日
●石井 清
タビチの写真展【M】

6月10日～7月10日
●出口 守展【P】

7月12日～8月8日
●稲垣 克次展【P】



8月

7月19日～9月4日
●不思議ねんどの
マリンアート展【M】

8月11日～9月9日
●森崑 昌行展【P】



9月

ギャラリー



出口 守展

コンサート・撮影・その他

7月15日
●海のホール定期コンサート
新日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーを迎えて

●少年海洋教室
7月27～29日(2泊3日)



少年海洋教室

●少年海洋教室
8月10～12日(2泊3日)

フオック
ナイト魚チング
8月1日～8月20日
19時～21時

お問い合わせは
鳥羽水族館 営業第一部まで
TEL 0599・25・2555(代)

【M】：マリンアートギャラリー 【P】：ビュアアートギャラリー ■三重県動物学会の詳細については 鳥羽水族館内・事務局まで

開館40周年記念

クイズ&ビッグプレゼント

●鳥羽水族館入館券●
10組20名様プレゼント

Q:今年、鳥羽水族館は開館何十周年でしょうか?
ハガキにクイズの答え、住所、氏名、感想をご記入の上、ご応募下さい。

●締切りは7月31日です。

あて先：〒517 鳥羽市鳥羽3-3-6
鳥羽水族館 T.S.A. 編集部

春・13号当選者の皆さん(オリジナルハンドタオル)

答え：ピパ 渡辺 勇次さん(岐阜県)
首藤 信夫さん(茨木県)
中村 達男さん(岡山県)以上3名様

スーパーの12、イロワケイルカ
ミズクラゲ

かわいいイルカね。

イルカってイロワケイルカって言うんだよ。

マゼラン海峡から、やってきたんだ。

ええっ! あのマゼラン海峡から!?

地球から148,000光年離れた...。

知っているの? 知らないだろうなあ。

マゼラン星雲だよ。

それは、マゼラン海峡から、やってきたんだ。

2 1 3 4

定期購読申し込み方法

お申し込み時より1年分の送料として190円切手を4枚、上記あて先までお送り下さい。
(住所・氏名・電話番号をお忘れなく!)